5 コミュニケーション支援ボードとは

「障がいのある人もない人も、地域の中で普通の生活が送れるような社会にしようとするノーマライゼーションの考え方」が社会の中に浸透し始め、段差の解消やエレベーターの設置などバリアフリーやユニバーサルデザインへの取り組みが進んできました。しかし、自閉症や知的障がいがある人たちの話し言葉によるコミュニケーションのバリアは分かりにくく、理解や関心がなかなか深まっていきませんでした。

そこで、話し言葉によるコミュニケーションのバリアフリーを進めるツールとして「コミュニケーション支援ボード」(ボードの中のイラストを指差してもらうことで意思の伝達を図るツール)が開発されました。"地域の中にあって地域で使うこと"を基本コンセプトに作成したツールを実際に利用することにより、障がい特性の理解や社会の認知を促進し、障がいへの理解を深めてもらう"こころのバリアフリー"もめざしています。

岩手銀行では、2003年から始まったこの啓発・普及活動に賛同し、自閉症や知的障がいのある人の社会からの認知を深め、これを利用して"こころのバリアフリー"を図るとともに、あわせて増加する岩手県を訪れる外国人観光客との意思疎通のツールとしても利用できるように、英語・韓国語・中国語を併記したコミュニケーション支援ボード「どうしましたか?」を制作いたしました。

6 知的障がい、自閉症とは

知的障がいのある人は、同年齢の人たちと同じように言葉を理解したり使ったりすることが苦手です。また、数字や文字を覚えたり、お金や時間の理解が難しかったり、あるいは仕事の手順を覚えるのに時間がかかったりします。何でも自分でできることを目標とした自立ではなく、障がいに合わせて周りの人からの支援を受けながら、より自分らしい生活ができるようになることをめざしています。

自閉症は、親の愛情が不足してなるような心の病気ではなく、性格的なものでもありません。現在は、生まれつき脳の機能がうまく働かないことによる障がいだと考えられており、知的障がいのある人もない人もいます。基本的な特性として人とかかわりをもつことが苦手で、人からの働きかけに対して自分の気持ちや状況をうまく伝えられないのです。また、初めての場所、分からないことがあると固まったり、パニックを起こすこともありますが、周囲の人を困らせようとしているわけではありません。自閉症の人は「視覚的な情報を見て理解すること」が得意(優位)で、言葉が話せなくても絵や写真を示すことで自分の意思や要求を伝えることができる人がいます。

岩手銀行が制作した「コミュニケーション支援ボード」は、汎用利用できるようにしております。当行ホームページからダウンロードできますので、自由にお使いください。また、この汎用支援ボードに加え、例えば「交通機関用」「病院用」「役所用」等それぞれの状況で利用できる個別の支援ボードがあれば、一層、自閉症や知的障がいの方との"こころのバリアフリー"が進むと考えます。当行のホームページに各業界や企業などが制作した個別の支援ボードをご紹介(リンクを張る)したいと考えておりますので、ご連絡をお願いいたします。

制作・配布:岩手銀行

後 援:岩手県・岩手県観光協会

岩手県手をつなぐ育成会 日本自閉症協会岩手県支部

協 力:公益財団法人明治安田こころの健康財団

イラスト: 櫻田 耕司

事務局:岩手銀行総合企画部

「コミュニケーション支援ボード」係 (お問合せ先) TEL: 019-624-7001 e メール ibk-soki@iwatebank.co.jp

ホームページ: http://www.iwatebank.co.jp/



ヨミュニケーション支援ボード どうしましたか? マニュアル

知的障がいや自閉症、聴覚障がいのある人のほか 外国人や高齢者、幼児、病気の人などが うまく意思や状況を伝えられないときに支援するボードです。

話し言葉によるコミュニケーションが うまくできない人たちも、 安心して暮らせる地域づくりをめざしています。



1 基本的な使い方

- **1.** 何か困っていたり、何か伝えたいことがあるような場合には、まずはゆっくり、やさしく、簡潔に声をかけてみます。
- 2. こちらの言葉の意味が通じていないときや、相手が何を言っているのかわからないときには、「どうしましたか?」と声をかけながらコミュニケーション支援ボード(トップページ)を示してください。"コミュニケーションをとろう""支援しよう"とする姿勢をまず伝えましょう。
- 3. 差し出したコミュニケーション支援ボードの絵を指さしてもらいます。このとき、「何か、お探しですか?」など簡潔な言葉で話し、ゆっくり支援ボードを見せて指さしできるように待ってください。
- **4.** 指さしすることが困難な人には、こちらから指さしして聞いてみてください。

□自閉症などの障がい特性をふまえた対応

- ① 話しかけたり聞き取りは、なるべく一人で対応 してください。
- ② 相手に面と向かって話しかけたりせず、できれば横の位置で対応してください。面と向かうと視線を避けたり横を向いて後ずさりし、どう対応してよいのか分からず、不安が大きくなりやすいからです。
- ③ どんな質問に対しても意味が分かっていないのに、何でも「はい」と言ってしまう人が時々います。また、「お名前は?」と尋ねると、「お名前は?」と言われたことをそのまま繰り返す人もいます。あせらず、じっくり待つことや、相手が本当に理解しているか再度確認することも重要です。
- ④ 「コミュニケーション支援ボード」がわからなくて も、実物を提示することで分かる場合もあります。 また、文字や絵を書くことができる人もいます。











2 気になる行動をしている・・・

- お店の冷蔵庫のとびらを開けたり閉めたりしている。
- お店の品物を勝手に並べ替えたり、取り出したりしている。
- → やめさせるときは、指や手で×を作ったり、コミュニケーション支援ボードの×の絵を指さし、「○○は終りですよ」「お金を払ってから」などと声をかけます。
- 何回も飛び跳ねたり、手をぱちぱち叩く、身体を同じリズムでゆすったりしている。
 - ⇒気持ちを落ち着かせるための行動かもしれません。 ご迷惑でなければ、少し見守って落ち着いてから声 をかけてください。
 - → 大きな声や音、あるいは身体を触られることに極端に過敏な人もいます。
 - →ゆっくりとやさしく話しかけながら、支援ボードの 最初のページを見せてください。



3 はじめてのお買い物・・・

- 品物を探したり、お金の支払いの時に時間がかかる人も います。
 - ▶ゆっくり簡単な言葉で、やさしく話してください。
 - →コミュニケーション支援ボードを使ってみてください。
 - →品物を指さしながら聞いたり、簡単な絵や文字を示して聞いてください。
 - →金額をコミュニケーション支援ボードの枠に水性ペンで書き込んで見せてあげてください。

(パウチ加工のため書いても消せます)



4 何かをさがしているのかな・・・もしかしたら迷子かな・・・

- ウロウロしたり、いつまでも同じ場所にいるとき
 - →「お買い物ですか?」「何かお困りですか?」などと ゆっくり静かに話しかけてみてください。
 - → 言葉が通じないときにはコミュニケーション支援ボードを使ってください。ボードの中のイラストを指さしすることで、意思の疎通がはかれる場合があります。 話せなくても、名前や電話番号を書ける人もいます。
 - →それでも対応に困ったら、衣服や持ち物に名前や連絡先がないか、確認させてもらってください。

